

### ①知ってる？「赤チン」

湯川村の桜町遺跡からは、「赤チン」と記されたガラス容器が見つかりました。「赤チン」は、赤いヨードチンキの意味です。傷口に塗る消毒液として使われていました。

現在では、国内での原料生産は中止となり、「赤チン」という名前も聞かなくなりましたね。

▶桜町遺跡（湯川村）出土 ガラス製瓶



### ②「鬼」がいっぱい

小野町の堂田A遺跡からは、多くの「鬼」と刻まれた平安時代の土師器が見つかりました。「鬼」と刻まれた土器は、ムラで行われたおまじないに利用されたと考えられます。

古代の「オニ」は、現在私達が考える「オニ」とは、少し異なる意味で使われていたのかもしれませんが。



◀堂田A遺跡（小野町）出土 土師器に刻まれた「鬼」の文字

### ⑤会津地方からサメの歯発見！

塩喰岩陰遺跡からは、サメの歯が見つかりました。この遺跡は西会津町に位置しています。直線にして、太平洋から120キロ、日本海から60キロも離れた場所にあります。どうしてでしょうか？

このサメの歯が、海側の人々と山域に住む人々の交流の証拠になると考えられます。



◀塩喰岩陰遺跡（西会津町）出土 サメの歯

### ⑥国史跡 横大道製鉄遺跡

国指定史跡 横大道製鉄遺跡は、古代の製鉄遺跡です。福島県の浜通り地方は、日本有数の古代の製鉄遺跡の分布地として知られています。

粘土で作られたチクワのような道具は、羽口と呼ばれています。これは、製鉄炉の中に風を送るために使われました。

横大道製鉄遺跡 ▶ 羽口



### ③寒い季節の必需品「温石」

小野町の古宿遺跡から見つかった温石と呼ばれる石の道具は、現代の道具でいうと、「カイロ」と同じような使い方であったようです。温めて布などに包み、体を温めるために使われていました。

また、ホットストーンとして、病気治療にも使用されていたようです。



▲古宿遺跡（小野町）出土 温石

### ④顔のついた弥生土器

弥生時代の東日本では、骨を土器に納めて埋葬する再葬墓というお墓が流行します。郡山市徳定A遺跡で発見された顔のついた壺型土器は、再葬墓から見つかります。県内では、今のところ6例のみです。

埋葬された弥生人は、このような顔だったのでしょかね。



▲徳定A遺跡（郡山市）出土 人面付土器

### ⑦重要文化財が855点

磐梯町と猪苗代町に位置する法正尻遺跡は、約5万年前とも言われる磐梯山の山くずれ層の上に立地した縄文時代中期の大集落跡です。出土品のうち、なんと855点が国指定重要文化財となっています。

2か月に1回、縄文土器を展示替えしていますので、お楽しみに。



法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）▲ 出土 縄文土器

### ⑧ヒントは、土器にある！

土器をよく観察すると、当時のくらしがわかるヒントが見つかります。例えば、土器の内側についたコゲ。このコゲを調べると、「何を調理してコゲたのか？」「いつ調理したのか？」が

分かってきました。

まほろんでは、収蔵している縄文土器や弥生土器など、160点を調査しました。



西田H遺跡 ▲（小野町）出土 コゲのある土器